

園長	主任	担任

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分が好きな遊びを、自分の力を発揮して繰り返し楽しむ。 友だちと意思を出し合いながら、遊びを進めていく楽しさを味わう。 冬の自然事象にふれ、感じたり気付いたりして関心をもつ。 冬を健康に過ごすために必要なことが分かり、自分からしようとする。 	子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> クラスのまとまりが、少しずつ見られるようになったきた。また、決まりを知り守ろうとする子もいるが、友だちの遊びに夢中になり危険に繋がりがちな子の姿も見られたので安全面に十分留意した。 	行事	<p>9日 新年こども会 10・24日 英語であそぼう 15日 おはなし会 17日 身体測定 25日 避難訓練</p>
内容		環境構成		保育者の援助及び配慮	
養護 ○生命 ・情緒	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い・うがいを丁寧に行い、健康に過ごす。 鼻のかみ方、咳のエチケットを知り、自分で意識して行う。 気温や活動に合わせて、衣類の調節を行う。 トイレの使い方やマナーを知り、安全、清潔に使用する。 室温・湿度・換気・清潔など環境に配慮し快適に生活できるようにする。 休み明けて不安定になる子もいるので、気持ち良く安心したなかで、過ごせるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い場を清潔に保つ。 一人一人の健康状態を把握し早めに対応できるように保育者間で連携していく。 インフルエンザやノロウイルスの流行する時期なので、室内の気温や湿度に留意しながら、感染予防に努める。子どもに手洗いやうがいの大切を分かりやすく伝える。 		<ul style="list-style-type: none"> 手洗いやうがいを丁寧に行えるように、一緒に手洗いやうがいをする。 規則正しい生活リズムを取り戻し、健康な生活が送れるように声かけをしていく。 トイレのサンダルを揃えること、ドアの開閉に気を付けることを確認する。 	
教育 ○健康 ・人間 関係 ・環境 ・言葉 ・表現	<ul style="list-style-type: none"> 感染症の予防の為に手洗い、うがいの必要性が分かり、自分から行おうとする。 簡単な決まりや約束を守る。 外用の上着を自分で着脱し、片付ける。 新年の挨拶や行事を知る。 年末年始に経験したことを、保育者や友だちに話す。 5歳児の活動を見たり一緒に遊んだりして興味を膨らませ、自分でもやってみる。 自分から進んで戸外に出て、鬼ごっこやボール遊び、縄跳びなど友だちと誘い合って思い切り体を動かして遊ぶ。 自分の思ったことや考えたことを、保育者や友だちに言葉で伝え、相手の話も聞こうと数R ルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。 正月の伝承遊びに興味をもち、自分なりの目当てをもって繰り返し楽しむ。(かるた・コマ・すくろく・凧あげ等) 冬の自然の変化や、吐いた息が白さや手指の冷たさ、木々の様子、風の冷たさから冬を感じる。 かるた、トランプ、すくろくなどで遊び、文字や数字に興味をもつ。 冬の自然や新年が題材の歌や絵本、紙芝居を保育者や友だちと楽しむ。 遊びに必要な物を工夫して作り、友だちと一緒に作った物を使って遊ぶ楽しさを味わう。 リズムを感じられる楽器を友だちと一緒にならして楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 順番は、平等になるように回数を確認したり種類を増やしていく。 子ども達が十分に遊びこめるように活動時間を工夫する。 ケガに繋がらないように、子ども理解からの行動予測や遊びの雰囲気に応じ、保育者の立ち位置を考慮。 異年齢交流は、担任同士で事前に交流の内容を決め、連携を取っていく。 年長児と関わる場を設けていく。 5歳児の遊びを見たり一緒に遊んでもらったりしたことを、自分からやってみようとする姿を大切に、用具を借りたり仲間に入れるように橋渡しをししたりして、5歳児への親しみや遊びの楽しさが広がるようにしていく。 様々な正月の伝承遊びに必要な物や遊ぶ場を用意し、興味をもって繰り返し楽しめるようにしていく。子どもの遊びの様子に応じて保育者も加わったり環境を整えていく。また正月遊びの用具を子どもが取り出しやすい場所に準備する。 タコ、鬼のお面などを制作する際に使う、用具、素材を用意する。 冬の自然が見つけれられる場に行く機会をもつ。 かるたやすくろくは、4歳児が楽しめるものを用意する。 健康に関する絵本や紙芝居を用意し、病気の予防について話し合う機会を設ける。 寒い日も戸外に出れるように身体を動かす遊びを用意。 		<ul style="list-style-type: none"> ルールを守ることで安全に過ごせることや、事故の怖さも知らせ意識が高まるようにする。また、公共のマナーについては、マナーがあることで快適に過ごせることを分かりやすく知らせ少しづつ身に付くようにする。 厚着にならないように理由を知らせたり、うがい手洗いの大切さを改めて知らせたり、保育者が手本を示していく。 肌着や鼻水が出ていたら自分で確認できるように、鏡を見るように知らせ気付けたことを誉めたり、仕上げを行ったりする。 視診や触診をこまめに行い、子ども同士の様子を見て、声を掛けたり検温したり職員同士で連携していく。 保育者は、子ども達が手伝いをしてくれたことに感謝の気持ちを伝え、満足感や意欲へと繋げていく。 お互いの思いがうまく伝わらないときには、保育者も一緒に考え、思いの違いに気付くように援助していく。 考えたり試したり工夫したりして、子どもたちが遊びが展開できるように援助していく。 凧あげ、コマ回しに挑戦している姿を認めたり一緒に遊んだりしながら、達成感を味わえるようにする。 霜柱、氷など冬の自然に対する子どもたちの気づきを受け止めて、保育者も共感し、興味や関心が広がるようにする。 	
食育	<ul style="list-style-type: none"> おせち料理、雑煮、七草がゆ、鏡開きなど、日本の伝統的な食事や由来について知る。 箸を正しく持ち、楽しく食事をする。 	<ul style="list-style-type: none"> おせち料理などの写真やイラストを貼り、親しみやすくする。 食事のマナーを守って食べる時の姿勢・声の大きさを図などで示す。 		<ul style="list-style-type: none"> 楽しい雰囲気や姿勢、食具の持ち方やマナーを知らせていく。 由来を分かりやすく知らせ、子どもの興味関心を促していく。 	
家庭・地域との連携		月の反省		自己評価	
<ul style="list-style-type: none"> 休み中の様子を聞きながら、リズムが整うように家庭と連携を取る。 感染症について情報を早期に知らせ、協力して頂くなど、子ども達の健康が日々保てるようにする。 商店街に散歩に行き、地域の人たちへ挨拶をする。 					